大阪市立中央図書館と古地図

毎週 1 回は利用している大阪市立中央図書館。この 10 月から、ネ―ミングライツにより、「辰巳商会」という 4 文字が先に加わった。どうしても違和感が拭えない。

中央図書館は日本全国の地方紙とともに、地図も充実している。いつも利用する 3 階の大阪コーナーに、これらが揃っている。また「研究個室」というのがあり、事前予約して利用している。土曜日の朝一番から「研究個室」に新聞や地図を持ち込んで、作業することが多い。私にとって、図書館のなかの貴重な居場所である。

2012 年に休刊となった『大阪人』最終号「古地図特集」に、中央図書館が登場しているので抜粋して紹介したい。

3 階大阪コーナーは大阪関係の書籍が多数収蔵され、奥には古い文献も手にとって閲覧できる開架書庫コーナーもある。探し出した古地図の内容を読み解いていくための材料も豊富だ。

中央図書館は地方自治体の図書館として全国でも最大規模で、蔵書数は百数十万冊にもおよぶ。さらに大阪関連の蔵書も充実している。

どこの図書館でも、古地図は書籍が並ぶ書架にはない。だから、探すのに手間がかかるのだが、中央図書館では、明治以後の地図の一部が 3 階大阪コーナーの「一枚もの地図」の棚に収納され、自由に閲覧できる。地図を痛めないように一枚ずつラミネート加工されており、見やすくて取り扱いもしやすい。

棚は明治、大正、昭和の各年代をさらにいくつかに分けているから、最初に地図の年代を絞り込んでおくと、ひとつの棚で同じ年代の地図をまとめて見られる。もし、これはと思うものがあれば、棚の上に取り出してゆっくり見るといい。近代の地図は、江戸時代の古地図に通じる絵図的な要素や時代のうつろいが感じられるものが多く、面白い。

とりあえず近代の地図にどんなものがあるかを知りたいという場合には、「一枚もの地図」の棚を覗くのが最適といえる。年代別の棚だけでなく、大阪府あるいは府下各都市の地図の棚もあり、ざっと見るだけでも短時間では無理。一日でも足りないかもしれない。一気に閲覧するのは疲れるし、気長に計画を立てて、何度か足を運ぶつもりでいた方がいいだろう。

本誌では中央図書館のほかに、堺市博物館の「日本最大級の古地図を壁面に再構成近世・堺の姿に触れる」も紹介されている。こんな情報も掲載された『大阪人』休刊を悲しむばかりだ。「維新政治」に対抗するためにも、『大阪人』復刊を期待したい。

（2019 年 12 月 22 日）